

今保育園では、節分に向けて各クラスそれぞれに味のあるお面を作って飾ったり、お面をかぶって豆まきをしたりしてあそんでいます。かめ組さんが大きな鬼を作って、その鬼に向かって豆を投げて盛り上がっている姿をりす・うさぎ組さんたちが興味深々に眺め、“オニ”“オニ”と言っている姿がとてもかわいかったです。

2月3日の節分当日は保育園に怖い鬼がやってきます。子どもたちと豆まきをして、無病息災を祈りたいと思います。



命のはなし —あかちゃんが産まれるまで—

ぞうぐみの子どもたちを対象にした「命のはなし」を今年度も、助産師でどんぐりOBの山形さんに行っていただきました。

話しの導入で、あかちゃんが産まれてくるまでの紙芝居を見終わった時、としひこ君は「涙が出ちゃった」とつぶやいていました。自分たちの心音の速さとあかちゃん的心音の速さの聞き比べを体験したり、はがき大の黒画用紙に針で穴をあけたものが手渡され、「この小さな穴、自分の最初の体だよ」と教えてもらうと「うわっ、ちっちゃ！」…など驚いている子どもたちでした。

このあかちゃんが少しずつ大きく、重くなった実物大のモデルを見せてもらいながら、実際に抱っこし、あかちゃんの重さを感じとっていた子どもたちでした。

子どもたちからは、「あかちゃんはどうやって生まれてくるの?」「お父さんにも命のもとがあるなら、どうしてお父さんからは生まれないの?」など色々質問もでて、一つひとつ丁寧に質問に答えてもらいました。後日、山形さんから、みなそれぞれにしっかり考えているんだ、子どもの感じる心は大切にしたいと感想を寄せていただきました。



/// 山形さんから子どもたちへのメッセージ ///



- ・一人ひとり、待ち望まれて生まれてきた世界でたった一つの大切な宝物である。
- ・お母さんのおなかの中で10カ月いて、頑張って生まれて来たこと。
- ・命を大切にすること。それは自分自身を大切にすること。
- ・周りの人も大切にすること。



— 読んでみませんか — 「はじまりは愛着から」佐々木正美著

子どもの立場に立っていつもとても優しい語り口の児童精神科医の佐々木先生が昨年の6月に永眠されました。この本は「暮らしの手帖」5年間にわたって連載されたものをまとめた1冊です。思春期のことまで見通したとてもわかりやすい本です。

子育てに”イラッ”としたときにもちょっと立ち止まって、優しくなれる本です。

